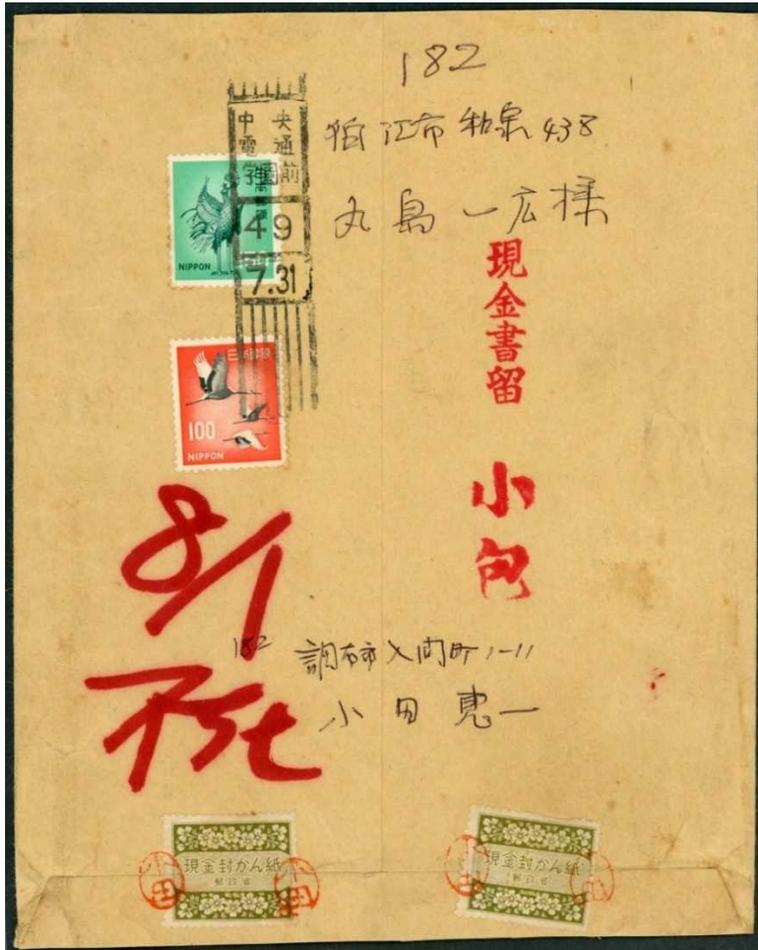


## 小包の現金書留便

永吉 秀夫



現金書留小包 (料金 250 円) 中央電通学園前 S49(1974). 7. 31 → 狛江

昨年来少し変わった小包便をいろいろ紹介してきましたが、今回はご覧のようなものです。現金書留の料金は1994年の料金改訂時に通常郵便使用と小包郵便使用とで別々に料金表に載るようになり、そのとき小包の現金書留などという制度があったことを初めて認識しました。普通の現金封筒に入らないような札束の山を送る姿を想像したりしましたが、現金書留の上限額が50万円(1994年当時)なので、それは無理です。その後、造幣局が販売する貨幣セットをメータースタンプ押しの現金書留小包で送った使用例を入手して、なるほどと思った記憶があります(その後現品は手放しましたが、過去の会報で紹介してあるかも... )。

今回の紹介品は切手貼りで、市内小包150円+書留100円の形で組み合わせ貼りしてあります。著名郵趣家あてですが、収集目的の郵便物ではなく、実際に必要があって現金を送った封筒のような雰囲気があります。しかし定形外郵便ならもっと安く送れたはずですね。なお宛先の狛江市は差出局「中央電通学園前」のある調布市と別の市ですが、当時の狛江市は調布郵便局の管内で、市内小包扱いが適用されていたようです。